日本語心的語彙における単語知識のマッピング

テリー・ジョイス
（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 JSPS 外国人特別研究員）

key words: 漢字二字熟語　連想語　単語知識

日本語心的語彙における漢字二字熟語の語彙表象と語彙検索に着目した研究(Joyce 1999, 2002)では、漢字二字熟語のターゲットに対して形態素である「前の漢字」条件・「後の漢字」条件の双方について構成要素形態素のプライミング法を用いた結果、プライミング効果が見られた。その結果を踏まえ、Joyce は日本語心的語彙のモデルとして「レンマ・ユニット・モデル」の日本語版を提唱している。また、そのモデルの妥当性をさらに検証するために、構成要素形態素の使用頻度データ(Joyce & Ohta, 2002)を参考にして、Joyce (2003)は「動詞＋補足語」と「補足語＋動詞」の漢字二字熟語における動詞構成要素の位置的頻度の影響を検討した。動詞の位置的頻度が高い漢字二字熟語では、構成要素形態素からのプライミング効果の逆のパターンが得られたという事実は、少なくともその漢字表象の活性化には位置的差違が影響することを示唆している。

しかし、これらの結果については、動詞の位置的差違の他にも、漢字一字と漢字二字熟語間の関係性の強さが影響しているという可能性があげられる。構成要素形態素の使用頻度に関する Joyce と Ohta (2002)のデータは、漢字二字熟語におけるある漢字一字が、「前の漢字」・「後の漢字」としてどの程度使用されているかを示しているが、どの漢字一字がどの漢字二字熟語と強く結びついているのかについては明らかにされていない。本研究では、単語完成課題の形式を用いて、漢字一字と漢字二字熟語間の関係性の強さに関するデータを収集・分析した。

連想調査

回答者：大学生 500 名(男性 268 名、女性 232)、平均年齢 19.3 (SD = 1.51)。

調査方法：調査は 2 段階で行われた。第 1 段階では、国立国語研究所(1976)の「現代新聞の漢字」データに基づき、出現頻度の高い 300 漢字に対して、「前の漢字」・「後の漢字」から 30 回答ずつを得るようにした。第 2 段階では、対象漢字の数及び回答の数を補うために 200 漢字を加え、合計 500 漢字に対して同様に 50 回答ずつを得るようにした。

質問紙：質問紙には 2 つの四角い枠を単位とするリストが並び、それぞれの枠の片方にはあらかじめ漢字が印刷されている。回答者は印刷された漢字一字（一人に対して 100 漢字）から漢字二字熟語を連想して空いている枠に適当な漢字を記入する。他の漢字の影響を減らすため、対象漢字をブロックに分けて混ぜるなどの方法を用い、さらに、リスト内での提示順序を変えてある。

結果

漢字ごとに、「前の漢字」・「後の漢字」別に、回答された熟語の延べ数 tokens、異なり数 types、異なり数/延べ数の率、非熟語・書き誤った熟語、送り仮名つきの回答数、及び空欄数を集計した。「前の漢字」から連想された熟語は延べ 23,517 語、5,844 種類であり、「後の漢字」から連想された熟語は延べ 22,672 語、6,732 種類であった。

	前の漢字	後の漢字
延べ数	23,517	22,672
空欄数	855	1,574
非熟語	628	754
	25,000	25,000
異なり数	5,844	6,732

「前の漢字」「後の漢字」を要因とする分析を行ったところ、延べ数については「前の漢字」が「後の漢字」より有意に多かった（t (499) = 5.254, p < .000）。したがって、空欄数と非熟語の数についても「前の漢字」が「後の漢字」より有意に少なかった。一方、異なり数については「後の漢字」が「前の漢字」より有意に多かった（t (499) = 5.943, p < .000）。

また、異なり数/延べ数の率では「前の漢字」が「後の漢字」より有意に低かった（t (499) = 7.580, p < .000）。つまり、「後の漢字」では回答された熟語の種類が多いのに対して、「前の漢字」では特定の熟語に回答が集中する傾向が示された。

結論

以上の結果から、漢字一字と漢字二字熟語間の関係性の強さは、漢字の配置や品詞とその意味的なつながりによって大きく異なることが示された。Nelson と McEvoy (2003)が示唆しているように、事項間の構造的な関係をマッピングすることによって理論的かつ実践的な考察が得られるのであり，心的語彙の構造と語彙表象・語彙検索の相互規定の特徴に関心を持つ認知心理学者にとって、単語知識、すなわち漢字一字と漢字二字熟語間の関係性のような連想語間のつなぎをマッピングするのは必須であろう。

Terry Joyce

（本研究は平成 15 年度文部科学省科学研究費補助金（特別研究員奨励費）「アジア諸語の心的語彙のためのレンマ・ユニット・モデル」（研究代表者：東外大 AA 研助教授小田淳一）の成果の一部である。）